

時代が変わっても、残していきたい風景

# 佐藤家住宅、国の登録有形文化財へ

町内字町地内(旧奥州街道沿い)に所在する旧家「佐藤家住宅」。明治から昭和にかけての近代和風建築物が長い年月を経て、今もそのまま残されています。佐藤家住宅は、屋敷規模が大きく各建物の保存状態も良いことから、平成29年6月28日に、屋敷内にある10の施設が宮城県の近代和風建築の代表的な遺例の一つとして、国の登録有形文化財に指定されました。今回はその10の施設をご紹介します。

## 【佐藤家住宅の歴史】

佐藤屋初代権右衛門(1752~1822年)は羽州米沢より安永年間(1772~1780年)に大河原須藤屋に奉公した後独立。その後須藤屋の勧めで、山形県米沢の出身であったことから屋号を「山米(ヤマコメ)」とする。

4代目源三郎(1829~1889年)は味噌醤油醸造業や呉服商を営むなど、佐藤屋の経営を大きく発展させた。5代目源三郎は経営活動の一方、大河原町議会議員や郵便局長などの要職を歴任。さらに6代目源助(1866~1905年)と協力し農事改良や、東北本線誘致活動への投資、教育・福祉・文化といった公益活動への寄付を積極的に行い、地域の振興に尽力した。

現在の佐藤家住宅には、そのシンボルともいえる明治期に建築された店蔵、新座敷、7代目源三郎(1901~1970年)が新築した住居であり社交の場でもあった邸宅(1939年・昭和14年竣工)、旧仙台藩職人の手によると伝わる屋敷神、その隣に第二次世界大戦中に建築された奉安殿がある。邸宅と奉安殿の設計は東北大学教授で、戦災で焼失した伊達家墓所瑞鳳殿再建の設計者でもある小倉強による。

さとうけじゅうたく しゅおく  
① 佐藤家住宅 主屋 (昭和14年頃建築)



中庭を囲い、西に接客用、北に居住用諸室を配し、東に食堂や調理室等をまとめる。和室を中心としながら、娯楽室と寝室は洋間とし、また細部には洋風意匠を巧みに取り込む。部屋数30を超える、大規模な近代和風建築。



娯楽室

さとうけじゅうたく しんざしき  
② 佐藤家住宅 新座敷




内部は15畳と10畳の座敷を並べ、西端に茶室を設ける。15畳間では矩折れとなる特徴的な床構えを見せる。明治34年頃に建築され、昭和11年に現在の場所に移築される。

さとうけじゅうたく たなくら  
③ 佐藤家住宅 店蔵



どぞうづくり  
土蔵造の外壁は漆喰塗と海鼠壁を塗り分け、軒も海鼠仕上げを廻し、街道沿いの景観を形作る。明治19年に建築され、東日本大震災の影響により、平成23年に一部改修している。

さとうけじゅうたく えんめいぐら  
④ 佐藤家住宅 延命蔵




大規模2階建土蔵。内部の階段は踊り場を持つT字型で、特徴ある空間を創出する。昭和14年頃に建築され、東日本大震災の影響により、平成23年に一部改修している。

さとうけじゅうたく いどや  
⑦ 佐藤家住宅 井戸屋 (昭和14年頃建築)



木製井筒の井戸の上に架かる。三方吹放ちとし、西面は格子細工を施す。数寄屋風意匠で敷地景観に趣を添える。

さとうけじゅうたく ごぎょういなりしゃ  
⑧ 佐藤家住宅 五行稻荷社 (明治32年建築)



四方に格子を建て込み、内部に厨子を置く。彫刻を豊かに施し、細部意匠を凝らす。

さとうけじゅうたく とりい  
⑩ 佐藤家住宅 鳥居 (昭和前期建築)




五行稻荷社と神宮小祠の境内の西南に立つ、石造の神明鳥居。

さとうけじゅうたく うちべい  
⑥ 佐藤家住宅 内堀 (昭和14年頃建築)

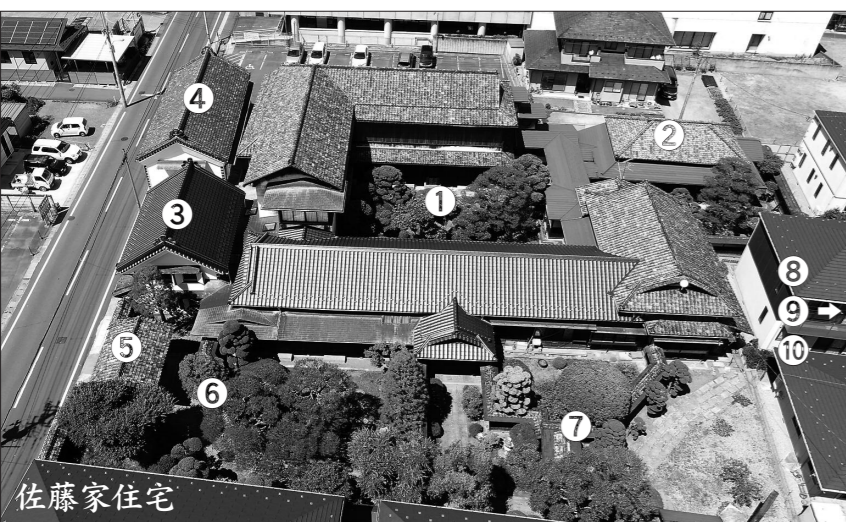


主屋と新座敷の内庭を区画する。主屋内側では竹を張り詰めるなど、意匠を凝らす。

さとうけじゅうたく おもてもんおよびそとべい  
⑤ 佐藤家住宅 表門及び外堀 (昭和14年頃建築)




表門は、太い柱や冠木に対して、軒廻りは繊細にまとめる。外堀とともに街道沿いの景観に寄与する。



佐藤屋プロジェクト秋の企画展  
**コンサートと大河原の歴史**  
音楽&落語&水石&講演  
日時:平成29年  
10月13日(金)~15日(日)  
午前10時~午後4時  
(最終日午後3時まで)  
会場:国登録有形文化財 佐藤屋邸  
入場料:無料  
主催:佐藤屋プロジェクト  
080-3658-9629 (渡辺)

さとうけじゅうたく じんぐうしょうし  
⑨ 佐藤家住宅 神宮小祠 (旧奉安殿)



もとは佐藤家が裁判所に奉安殿として寄付したもので、昭和前期に建築され、戦後昭和20年代に現在地に移築した。小規模ながら、神明造の特徴をよく備える。

## 「佐藤家住宅について」



9代目 佐藤源之さん

中央公民館の隣に位置する佐藤家は、ご年配のかたなら味噌醤油の「ヤマコメ佐藤屋」としてご存知のかたが多いかと思えます。その店舗であった店蔵(たなくら)は現在「てとてと」にお使いいただいています。

このたび昭和14年頃に建てられた母屋と明治時代の蔵やお稲荷さんなど佐藤屋邸内にある10の建物が登録有形文化財に指定されました。

最近は大河原町の有志による佐藤屋プロジェクトが中心となり、雛祭り、桜まつりと秋の展示会で屋敷を一般公開し多くの町民の皆さんにもご覧いただいています。

昭和初期の落ち着いた佇まいはこれからも大河原の文化活動の中心として町の皆さんに親しんでいただきたいと思います。